

## 31. 特別養護老人ホーム入所者の口腔内の状況について(東日本学園大学歯学会第10回学術大会(平成4年度))

著者名(日)	石井 郁美, 道谷 弘之, 武藤 寿孝, 金澤 正昭
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	11
号	1
ページ	153
発行年	1992-06-30
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00007769/">http://id.nii.ac.jp/1145/00007769/</a>

次にこれらのうち肝腎疾患などを有していない男女計52名について、Rapid turnover protein (RTP), [プレアルブミン(PA), レチノール結合蛋白(RBP), トランスフェリン(Tf)] (血漿蛋白定量用免疫拡散板使用), 及び補体価(NewワンポイントCH50使用)を測定した。なお, コントロール群として本学学生10名を用いた。

**【結果】** 1. 体型評価の歳にはブローカー法により皮下脂肪厚を測定して行う方法がよりの確と思われた。皮下脂肪厚測定の結果, 体型がやせ, 中等度, 及び肥満と判定された者はそれぞれ約4%, 75%, 21%であった。

2. 尿中クレアチニン量はクレアチニンリン酸が骨格筋に多く存在していることから, 体重よりも身長と対比させて考えた方が効果的と思われた。また, ヤセのグループは筋肉の発達不良の傾向にあることがうかがわれた。

3. RBP, CH50の値はコントロール群より低く ( $p < 0.001$ ), また寝たきり, 座れる, 歩行障害など, 運動機能が制約されている群のPA値は, 歩ける, 走れる群より低い値を示した ( $p < 0.02$ )。これらの結果は尿中クレアチニンの低下と合わせて考えると, 運動機能の制約による骨格筋の発育低下によるものと推察された。

### 31. 特別養護老人ホーム入所者の口腔内の状況について

石井郁美<sup>1)</sup>, 道谷弘之<sup>1)2)</sup>, 武藤寿孝<sup>2)</sup>  
金澤正昭<sup>2)</sup>

(本学社会歯科臨床研究所附属緑星の里歯科診療所<sup>1)</sup>, 口腔外科 I <sup>2)</sup>)

近年, 高齢化社会をむかえ, 種々の精神的身体的障害を持つ高齢者が増加してきており, 医療福祉の充実が重要な課題となってきている。このような高齢者では, 歯科領域においても, 種々の疾患や改善すべき口腔機能を有することが多いにもかかわらず, 治療を受ける機会の少ないことが指摘されている。

そこで今回われわれは, 特別養護老人ホーム入所者について, 口腔内の状態および衛生管理の状況を調査したので, その概要を報告した。

**(対象および方法)** 特別養護老人ホーム「養明園」の入所者80名のうち, 調査可能であった75名(52~96歳, 男性20名・女性55名, 平均年齢80.4歳)を対象として, 歯牙の欠損および補綴状況, 床義歯の管理状況などを調査し, 併せて精神的身体的障害との関連について検討を

行った。

**(結果および考察)** 欠損歯の状況では, 上下とも無歯顎の者が65%を占め, 残存歯が合計10歯以下の者は85%であった。また, 全ての者が残存歯20歯以下で, 有床義歯の適応と思われた。また, これらの中で義歯を使用していない者は35%であった。床義歯を使用している者のうち, 着脱・清掃などの管理が自己にまかされている者は63%, 第三者の介助が必要な者は37%であった。入所者のうち, 四肢ないし体幹の運動機能不全などの身体的障害を持っている者は59%, 老人性痴呆症などの精神的障害を持っているものは41%であった。多数歯の欠損がありながら義歯を使用していない者や, 義歯の清掃・管理に第三者の介助を必要としている者では, 高度の障害を有していることが多かった。